

Vol. 92

編集 環境パートナーシップちば  
 代表 桑波田 和子  
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1  
 (一財)千葉県環境財団業務部  
 環境活動支援課  
 電話 043-246-2180  
 FAX 043-246-6969



# だより

— つながれ ひろがれ —

## 第20回 エコフェアいちほら 出展報告

6月15日(土)に市原市勤労会館(youホール)と市原市総合公園を使った会場で、エコフェアいちほらが開催されました。JR内房線の五井駅に近いこの総合公園は今年、平成25年4月にオープンしたばかりとあって、会場中央の芝生も企業ブースのある建物もピッカピカでした。ただ残念なことに、ぽつりぽつりと小雨がぱらついていて、芝生でのフリーマーケットなど屋外イベントの参加者は大変だったと思います。

今回の「エコフェアいちほら」は、「エコフェアいちほら20周年」と「市原市制施行50周年」の記念すべき年だそうです。テーマは「自然の恵み 未来の子どもたちへ」です。

昨年度までの市民会館が使用できないため、会場を変えたそうですが、広すぎて各イベント会場への移動時間等課題があるように思いました。

この日、youホール2階の市民団体会場で、「環境パートナーシップちば」は、桑波田代表ほか4名で「木の実のせっけんでブクブク体験」を行いました。ムクロジの果肉を水に浸けた木の実せっけんに、はちみつを入れてのシャボン玉遊び、子

どもたちに人気でした。食器の油污れを木の実せっけんで洗い流すデモ、意外と?ちゃんと洗えました。サイカチとムクロジの実の展示とパネル紹介。巨大な豆の鞘が印象的なサイカチは訪れた人の目を引いていました。

今回紹介した「せっけんの実」は、昨年の秋に採取したものです。木の実に含まれるせっけんの成分はサポニンという界面活性剤で、日本でも食器洗い、洗濯、洗髪などに使われていた時代があ

ったそうで、「ずっと昔、子どものころにサイカチで頭を洗っていました」と懐かしそうに話してくださる来場者の方もいらっしゃいました。皆さんお疲れさまでした。



(文責：五十嵐)

## 第16回 ふなばし環境フェア出展報告

日時 平成24年6月8日(土)

会場 船橋市中央公民館4・5・6階及び館前広場

主催 船橋市環境フェア実行委員会(44団体)

後援 船橋市教育委員会

テーマ 「広げよう 自然にやさしいエコ活動」

「ふなばし環境フェア」は、市民・事業者及び行政それぞれが、環境意識を高め、健全で恵み豊かな環境の実現を目指す事を目的に開催され、天候にも恵まれ来場者は過去二番目の約4,500人となりました。これも環境に対して船橋市民の関心が年々高まって来た結果と想われます。出展団体44団体の内訳は、市民24団体、事業者13団体、学校3団体、行政4団体でした。

開会式では、角田喜信実行委員長、山口真矢副市長(来賓)挨拶の後、来場者も今年のテーマに沿った環境に願いを込めたメッセージを短冊に書き、思い思いに飾りました。

環パちばでは、環パちばの活動紹介ブースと、

事務局を担当しているエコメッセちば実行委員会と、あわせて2ブース出展しました。エコメッセブースでは、エコメッセの広報を兼ねて、ポスターやチラシなど展示しました。特に、環境活動団体の交流を目的とした環境協働創造市への参加を呼びかけました。環境協働創造市とは、昨年度から開始しています、「協力します」と「協力したい」をつなぎ、環境活動の広がり効果を目指し年間活動しています。そこで、団体などの日々の活動の課題等を通して、連携協働する効果などを目視化する「マインドマップ」について、7月6日(土)、千葉工大で谷合先生(千葉工大)の講演による交流会開催には多くの方が関心を示しました。

ふなばし環境フェアに出展している企業の中でリサイクル関係が多く、毎年幕張メッセで開催される県内最大のエコメッセのイベントを知らない企業も有り、今回の説明で是非参加したいとの声を聞きました。

(文責：斎藤)

## いんざい環境フェスタ

亀成川を愛する会 小倉久子

6月2日(日)に、千葉ニュータウン中央にあるイオンモールのコスモス広場で「いんざい環境フェスタ」が開かれました。

それほど広くないスペースではありましたが、10数張のテントがちょうど良く収まって、印西市、県生物多様性センターのほか、いろいろな分野の市民団体が出展していました。時々雨が降るあいにくのお天気でしたが、クイズラリーのおかげで、ショッピングや食事などに来た家族連れがたくさんテントに立ち寄ってくれました。

私の所属する「亀成川を愛する会」では、会のもともとの目的である亀成川の川づくりの活動の紹介とともに、千葉ニュータウンの計画地内に今も残っている美しい自然について写真で説明し(亀成の会には腕利きのカメラマンがたくさんいるのです!)、この自然を壊して「ふつうのコンクリートの住宅地」を作るのではなく、自然を活かしたまちづくりを!と呼びかけました。おかげさまでたくさんの方のご賛同をいただくことができ、

とてもカづけられました。

これについては、現在インターネット署名を実施中です。亀成川を愛する会のHP <http://www.kamenari-love.com/index.html> から、一人でも多くの方が署名して下さることを願っております。(すでに紙の署名をしてくださった方は、重複します。お知り合いをお誘いください。)



亀成川を愛する会のテント

## 青少年相談員連絡協議会研修

6月15日、香取市青少年相談員役80名を対象に、アイスブレイク講習会を行ってきました。場所は香取市民体育館で、講習を行ってきたのは広田講師をはじめとして中村さん、松橋の3名です。これは香取市青少年相談員連絡協議会研修会で「はじめての子どもたちとの接し方～アイスブレイクの手法を学ぶ～」として約90分で行ったものです。

今回のアイスブレイクは、受付で名札に名前を書きとるところからスタート。名札には参加者のお名前のほか、講習中に呼んで欲しい名前を書いてもらいました。皆さんワイワイとかつ真剣にニックネームを考えています。ちなみに会長さんはロブプロスさん!気がつく、参加者のほとんどが男性です。しかもどちらかというと体育会系(失礼!)。女性は1人しかいらっしゃいませんでした。その秘密は後から分かったのですが・・・。

講習ではアイスブレイクを6つ紹介しました。最初は座ったままできる、「バキューン」。これは難なくみなさんこなしていきます。次に立って動く、「お誕生日順に並んでみよう」80人以上が大きな縁をつくって並んでいる光景はまさに圧巻です。次は誕生日の近い日の方で小グループをつくり名前を呼び合いながら覚えてもらう「名前のキャッチボール」、「隣の人を紹介しよう」、気持ちを盛り上げる「イイハ!バキューン!」です。

参加者からは、「実は10日前にアイスブレイク講習を学んだのだが、全然違う内容で楽しかった!」「名札づくりから始まるっておもしろい」「名前を覚えるのに使えそう」などなど好評をいただきました。名札づくりのときの不安そうな顔から、笑顔一杯に変わって、よかったです。講習にいったこちらもかえってパワーをいただいて帰ってきました。

ちなみに、この講習後にヘルスバレーの審判の講習会が同じ会場で同じ参加者で行われたので、少し見学させていただきました。この地域の相談員のみなさんはヘルスバレーの運営や講習をすることが多いんだそうです。それで参加者に体育会系(失礼!)の方が多いのかと納得。

(文責:松橋)





# 「未来に向かってはばたこう」 ～ラムサール条約登録20周年を迎えた谷津干潟から～

谷津干潟自然観察センター指定管理者  
(社)アーバンネイチャーマネジメントサービス  
CEPA 活動コーディネーター 芝原達也

谷津干潟がラムサール条約に登録されて20年が経ちました。人に例えると、成人式を迎え、新たな抱負を胸に抱きこれからの時代を生きる若者、というところでしょうか。

これから先、谷津干潟をどのように守って次の世代に継いでいけば良いか考えるとき、ヒントとなるのはラムサール条約の基本の考えです。

ラムサール条約の正式名称は、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」です。水鳥を守るための条約と思われるがちですが、英語で“Convention on Wetlands”（湿地条約）と呼ばれ、水資源の保全、水質浄化、食糧の供給、レクリエーションの提供等-様々な機能を持つ湿地を保全し、ワイズユースすることを目的としています。ワイズユース=Wise use とは、人間の行為を厳しく規制して湿地を保護するのではなく、湿地の機能やそこから得られる恵みを維持しながら活用するという考えです。ちなみに、地元の習志野市は、基本構想で“都市と自然が共生したまち”を目指すべき都市像として掲げており、谷津干潟はそのシンボルと言えます。

さて、条約に登録され十分に保護されている、というイメージの谷津干潟ですが、現在、シギやチドリの数減少、アオサの繁茂と腐敗、これに伴う悪臭の発生という問題を抱えています。皆で問題を共有し、皆で守ろうというムードをつくらねばなりません。同時に、谷津干潟の魅力そのものも、まだまだ地元の方にすら伝わっていないと感じています。

そこで、参考になるのがラムサール条約のCEPA（セパ）という、湿地の保全とワイズユースを推し進める考え・活動です。CEPA は、Communication（対話）、Education（教育）、Participation（参加）、Awareness（啓発）の頭文字です。「教育」と「啓発」は、自然観察センターの取組みや場そのものです。バードウォッチング以外に、干潟体験や、生態系について学ぶプログラム、干潟の実態を知る機会の提供が必要です。「対話」は、谷津干潟が社会のコミュニケーションの媒介となり、“身の回り”として意識される状態を目指すことであり、これからの谷津干潟について地域住民がじっくり話し合うことも含まれる

でしょう。「参加」は、地域住民が主体になって谷津干潟の保全とワイズユースに参加することを目指すものと解釈できます。

具体的な行動として、地域住民36名で構成する谷津干潟の日実行委員会が運営する「平成25年度 ラムサール条約登録20周年記念・谷津干潟の日」が6月に習志野市の主催で開催されました。4日間で約15,000人の来場者がありました。以下は、イベントの概要<sup>1</sup>です。

〔第1・第2日〕市民参加模擬店に49団体が出展。地元の小学校2校、中学校1校、高校3校による音楽演奏。その他に地元のサッカー協会や水産会社の協力によるパフォーマンスや教室など。

〔第3・第4日〕谷津干潟のゴミ清掃イベントと生きもの調査にあわせて約270人が参加。谷津干潟の未来を考えるシンポジウムに地元の大学生・高校生を含む約120人が参加。

最終日のシンポジウムでは、干潟利用のルールの検討を含む、谷津干潟の保全とワイズユースについて、地域住民を主体に多様な関係者が話し合う場をいかに作るかが次の課題として見えてきました。

最後に。20周年という機会はまたとありません。私たちは、谷津干潟の将来のために、次世代を支える子どもや若者のために、未来に向けて道筋をつけていく努力を今後も続けていきたいと思えます。

## ●今後の20周年記念イベント<sup>2</sup>

① 8月24日開催「8. 24 愛で包もう谷津干潟」

黄色のハンカチと人で谷津干潟を包むイベント。

② 10月27日開催「アオサについて考える集い」

谷津干潟で増える緑の海藻、アオサを考えます。詳細は、脚注のURLより谷津干潟自然観察センターホームページをご覧ください。



<sup>1</sup>6月の谷津干潟の日の報告の詳細

<http://www.yatsuhigata.jp/ram20/pdf/2013yatsuhigatadayreport.pdf>

<sup>2</sup>今後の20周年記念イベントの詳細

<http://www.yatsuhigata.jp/ram20/index.html>

## 花見川ナガエツルノゲイトウ調査報告

2013年6月21日環境パートナーシップちば主催、大和田にある独立行政法人水資源機構千葉用水総合管理所（大和田排水機場）様のご協力をいただき「花見川 ナガエツルノゲイトウの分布調査」を実施しました。今にも雨が降りそうなお天気でしたが、タイミングよく大和田排水機場に着くころに雨となりました。（詳細な報告は <http://kanpachiba.com/archives/1210>）

この調査は、24年度に続き25年度も継続し、花見川だけでなく新川や印旛沼までの流域としてのネットワークを広げることを目的に実施します。

参加者は、花見川的环境を守る会、印旛沼土地改良区 佐倉印旛沼ネットワークの会(2名) 生物多様性センター、千葉市環境保全課(2名)、八千代市環境保全課(2名)、環境パートナーシップちば(7名)です。

調査では、24年の9月に調査した時点では生育していなかった柏井浄水場から花見川への排水箇所にもナガエツルノゲイトウの島ができていました。また、今回初めて調査する弁天橋から大和田機場までの間にも生育場所が多く見られました。ここには勝田川、高津川の落ち口もあります。ナ

ガエツルノゲイトウは、川下から川上にも生育しますので、特に勝田川へ広げないためにも、この地点の駆除も重要です。さらにこの場所では土手の草刈など管理をしている地域の2つのNPO法人があります。今回は参加されませんでした。今後両NPOとの連携も重要です。

意見交換会では、水資源機構(7名)も加わり、短い時間でしたが、ナガエツルノゲイトウの花見川での生育状況及び八千代市内を流れ新川に注ぐ桑納川での生育状況、また、水資源機構の対策などの情報を共有することができました。さらに、千葉市や八千代市など流域の行政や、生物多様性センター、土地改良区、市民団体との交流の場としても有意義でした。

当会では、「花見川のナガエツルノゲイトウを何とかしたい」というメッセージをエコメッセで実施している「環境活動創造市\*」に登録して実行しています。今後多くの主体と連携協働して活動していきます。

(\*<http://ecomesse.blogdehp.ne.jp/category/1642706.html>) (文責：桑波田)

## ナガエツルノゲイトウ Q&A (その2)

Q：千葉県には、いつ頃入ってきたのですか？

A：日本で最初に確認された1989年（兵庫県）とほぼ同時に、千葉県では1990年に鹿島川河口部で生育記録があります。

Q：印旛沼の周りで増えているのは、どうして？

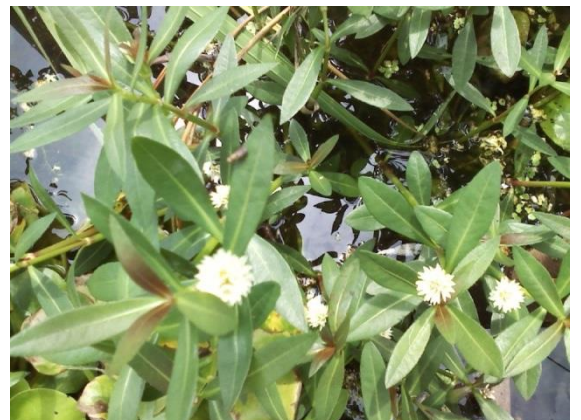
A：印旛沼の水は農業用水に使われていますが、ポンプで汲み上げられた水に、ナガエの茎や葉っぱの切れ端が混じって田んぼに運ばれてしまい、田んぼから水路や川に広がっていったと考えられています。印旛沼からの農業用水が使われている手賀沼流域にも分布が拡大中です。

Q：印旛沼にたくさん生えていると、どうしていけないの？白いお花がかわいいと思うのですが。

A：なにしろ恐ろしいほどの生命力で、どんどん増えてしまうので、そのままにしておくと、沼や川では水面がなくなってしまうほどです。当然、今まであった植物などは、追いやられてしまいます。

Q：そんなに広がってしまったら大変だから、みんなで駆除作業をしよう！

A：でも、法律で勝手に移動してはいけないことになっているので、あらかじめ駆除の申請・認定が必要です。認定をとった自治体や団体と協力して駆除作業をすると良いです。ただし、抜き取っても、ちぎれた葉っぱを散らかしたのでは逆効果になります。小さい切れ端でも丁寧に拾い取って、まとめて乾燥・枯死させてから搬出するというルールを必ず守ってください。（文責 小倉久子）





## 第57回エコサロン報告

### 「伊達市の移動教室から東北支援と放射能を考える」

6月14日（金）ちば市民活力創造プラザを会場に開催しました。講師には、伊達市「移動教室」支援委員会事務局で、森の贈り物研究会を主宰されている花岡崇一様をお願いしました。はじめに、福島県伊達市から新潟県見附市に学級まるごと移動教室のDVD映像を拝見しました。伊達市は福島第一原子力発電所の事故・爆発により放射能汚染の被害を蒙りました。子どもたちは外部被曝を日々測る線量計を身に付け、草木についたセシウムに触らないようにする生活が始まったのです。屋外活動が制限され、運動不足から体力が落ちました。それ以上に深刻なのは、外での体育の授業を嫌い、遊びが屋内ゲームなどに偏る気持ちが強くなったことです。何かしなければという思いが行動に結びついたのは、花岡様が校長時代に旧保原町と横浜市矢向の十余年のホームステイ交流があったからでした。その上に伊達市教育委員会の決断と文科省支援・新潟県見附市のご好意で、9校の5年生が先生と一緒に教室ごと1週間県境を越えて新潟見附市の学校に移ってしまう「移動教室」として実現しました。

この様子は、福島の被災地を追っている映像作家白石さんによってみごとに記録されました。ラ

ンドセルを背負ってバスから降りくる子どもたちと先生の緊張した顔が、迎えた見附の子どもたちの温かさでたちまちほころびました。ともに入ったプール、伊達の子どものには2年ぶりの水泳授業でした。小規模校なのでたった一人の6年生女兒も一緒にきました。見附の教室ではじめて同学年の子どもたちと机を並べて算数の勉強をしました。その時の緊張とわくわくする喜びの表情は、この「移動教室」に新しい意味を与えました。修学旅行や林間学校とは違った、教室を移動して伊達市の先生方が授業行う取り組み方の様子や、見附市の現場の先生方の一生懸命なサポートなど映像ならではの気迫や子どもたちの楽しく授業する様子など一見の価値があります。環境パートナーシップちばでDVDをいただきましたので、観てみたいという方は是非ご一報ください。貸し出しいたします。

今回参加費を支援委員会にお送りいたしました。みなさまには、ご協力いただきありがとうございました。今後も見守っていただきたいと思います。（文責 横山）



## 第58回 環境パートナーシップ エコサロンへのお誘い

環境パートナーシップでは、福島第一原子力発電所の事故による放射能の問題について、いろいろな角度からエコサロンで取り上げてきました。

（第53回：放射能と向き合う、第57回：伊達市の移動教室から東北支援と放射能を考える。）

今回は、私たちが住む千葉県の放射能の実態について、モニタリング調査を行っている千葉県環境研究センターの方たちに、調査結果をもとにお話をさせていただきます。

原発事故の後、千葉県に飛来してきた放射性物質は県内でどのようにたまっているのでしょうか。また、それらから出る放射能は、どのように減ってきているのでしょうか。除染によって放射能はそのくらい軽減したのでしょうか。

私たちのこのような疑問や心配を解くために、環境研究センターの専門家の方たちがわかりやすく丁寧に説明していただきます。

エコサロンでは、質問や意見交換の時間を多め

にとりますので、聞きたいことをもってぜひご参加ください。

日時：8月23日（金）18：00～20：00

会場：千葉市ビジネス支援センター（きぼーる）

13階 会議室1（千葉市中央区中央4-5-1）

千葉駅東口7番バスのりば「大学病院・南矢作」行などで「中央三丁目」下車 すぐ

講演内容

- ・千葉県内の環境放射能測定について（千葉県環境研究センター井上智博主席研究員）
- ・手賀沼、印旛沼流域の放射性物質の調査結果（同 藤村葉子室長）

参加費（資料代）：500円

定員 30名（先着順）

問合せ先：小倉（080-8116-4633）

E-mail welcome@kanpachiba.com

## 今年の千葉県環境学習指導者養成講座は、 楽しく身に付く内容です！ ふるって、ご応募ください！！

プロポーザル公募方式で実施された環境学習指導者養成講座を、幸いにも平成25年度も環パちばが受託させていただけることになりました。今年度は、提案書の自由度が採択の判定になるということでした。環パちばとしては、平成23年度、24年度の受託の経験を活かし、さらに講座卒業後実行性の高いものを提案いたしました。

以下に、各講座概要の紹介を記しますので、ご覧ください。詳細は、当会ホームページをご覧ください。http://kanpachiba.com/

**【環境学習指導技能向上講座】**は、環境学習の指導の実践経験を2年以上継続して実施している方、過去に、環境学習指導者養成講座(発展コース)を終了した方が対象です。今年度の目玉は、環境学習のためのファシリテーション力を磨くために、2日間講座を行います。基礎から実践まで体験します。さらに、4日目の講座では、パソコンの実体験学習も行います。

**【環境学習指導者養成講座・導入コース】**では、温暖化防止や里山保全活動等の各分野で実際に体験するインターンシップを実施します。受け入れ団体は、GONET、ビオスの会、ストップ地球温暖化千葉推進会議、アースドクターふなばし、NPO法人千葉自然学校、グループ2000、アーバンネイチャーマネジメントサービス(谷津干潟自然観察センター)、浦安水辺の会、NPO法人せっけんの街、千葉県環境財団、環境パートナーシップちばの10団体です。

**【同・発展コース】**では、講座で作成したプログラムを実際に体験・評価して、より良いプログラムづくりを学びます。「そのまま使えるプログラム」作りをめざします。

まずは、技能向上講座から開講します。既に申込み受付を開始しております。締切日は8月25日です。導入コースの申し込み締切日は、9月10日です。募集人数は各講座30名です。どうぞお早めにお申し込みください。ちなみに、どの講座も無料です！

### ★★ 申し込み方法 ★★

- ① HP: <http://kanpachiba.com> 上の申込みフォームに必要事項を入力して送信
- ② E-mail:
  - 技能向上講座: [moushikomi\\_ginou@kanpachiba.com](mailto:moushikomi_ginou@kanpachiba.com)
  - 導入コース: [moushikomi\\_dounyu@kanpachiba.com](mailto:moushikomi_dounyu@kanpachiba.com)
- ③ Fax (043-246-6969) 又は郵送 (千葉県環境財団環境活動支援課 気付)

(②と③には、氏名・性別・年齢・連絡先・指導者養成講座の受講経験・所属団体・受講希望理由をご記入ください)

### ★問合せ先(講座事務局)

電話: 090-8116-4633

E-mail: 上記メールアドレスにどうぞ。

(文責: 桑波田)

### 「環境学習指導技能向上講座」

#### カリキュラム

- ☆ 第1回 9月1日(日)  
「技能向上するために、最新の環境問題・ESDについて」
- ☆ 第2回 9月8日(日)  
「ファシリテーションの基礎」
- ☆ 第3回 9月15日(日)  
「ファシリテーションの活用と応用」
- ☆ 第4回 9月22日(日)  
「情報を読み解く力と情報を発信する力」

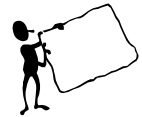
### 「環境学習指導者養成講座

#### 【導入コース】カリキュラム

- ☆ 第1回 9月15日(日)  
「環境保全活動、環境学習の基本について」
- ☆ 第2回 9月22日(日)  
「環境保全活動インターンシップについて」
- ☆ 第3回 9月23日~11月8日  
「環境保全活動団体でのインターンシップ」
- ☆ 第4回 10月20日(日)  
「インターンシップ中間ふりかえり」
- ☆ 第5回 11月9日(土)  
「ふりかえりから今後の活動へ」

県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 17 —  
おききました！ この人・この団体

## ビオスの会



### バクテリアのバクちゃんと生ゴミ処理

NPO法人ビオスの会 津本純子

私の親世代は戦後の物のない時代を生き延びてきた世代なので、「もったいない」精神の持ち主、物を大切に使い、まだ使えるものを捨てられない人たちでした。そんな親に育てられた私は、まだ使えるものまでゴミにして燃やしてしまう風潮に疑問をもっていました。そんなことを言っても、狭い集合住宅に増えるものをかかえ、まだ使ってもゴミにせざるを得ません。生協の活動の中で、瓶、缶、牛乳パックの資源化に少し関わった先に、生ごみの資源化はありました。

当時北清掃工場の建設反対運動に関わったことから、可燃ごみの中でも生ごみがキーポイントであることを認識し、当時まだ一般的でなかったEM（Effective Microorganisms）菌による処理を知り、さっそくベランダで始めました。たちまちベランダはプランターで埋まり、集合住宅では出口がなければ難しいことが分かりました。そんなときにビオスの会と出会い、バクテリアハウスという処理容器に出会い、やっとベランダで生ごみの資源化（堆肥化）ができるようになったのです。バクテリアハウスを使うと生ごみを8、9割減量できるのです。

いつもうまくいくとは限りませんが、寒い冬の朝、蓋を開けたときにもうもうと湯気が立ったときなど感動します。バクテリアのバクちゃんが元気に働いてくれているのがうれしくて、私も元気をもらい、周りにこのうれしさを伝えたいくなります。この気持ちがビオスの会の主な活動である家庭生ごみ資源化の普及活動の原点です。ゴミの中

には、どうしても燃やしたり埋めたりしなければならないものもありますが、生ごみは土に還すことができるのです。

ビオスの会は若葉区野呂町に50アールの農場を借り、堆肥を多用して野菜を無農薬栽培しています。EMバケツやバクテリアハウスで生ごみ処理をしているグループに野菜を頒布しています。3年前からは、EMバケツで処理した一次処理物を農場へ運んで堆肥にして利用しています。生ごみのリサイクルの輪が完結しつつあるのです。

また今年度は小学4年生を対象に「生ごみリサイクル教室」が始まっています。当会で作成した小学生用テキスト「生ごみはどこへ？・・・命はめぐる・・・」を使い、バクテリアハウスを1クラスに1台置いて、お当番が毎日給食の調理残渣を入れ、全員が入れ終わったら、1か月ほど熟成させて堆肥にし、プランターや畑に利用するというものです。先日初めの学校が終わったところですが、堆肥は野菜のかけらもなくよくできていて、子供たちは興味深々、それぞれ自分のプランターと学年の畑へ堆肥を入れました。バクテリアの働きで生ごみが消えてしまう不思議さ、温度が上がって水が出てくる不思議さ面白さを感じてもらえたでしょうか。同じように大人版「生ごみを減らして野菜を育てよう」がセブンイレブンの助成金を得て始まっています。バクテリアのバクちゃんと一緒に楽しく生ごみを処理する仲間が増えることを期待しています。



# 運営委員会報告

環パ通信【メルマガ】ご希望の方はアドレスを info@kanpachiba.com にお知らせください。  
(広報部)

## 6月運営委員会

日時 6月14日(金) 15:00~17:00  
場所 千葉市民活力創造プラザ

### 【報告】

- ・第10回里山シンポジウム開催
- ・環境学習についての意見交換会
- ・千葉県環境学習指導者養成講座説明会
- ・だより91号印刷・発送
- ・指導者養成講座準備打ち合わせ
- ・花見川での環境学習について(浦安市と)
- ・エコメッセちば・エコフェアいちほら
- ・その他

### 【協議】

- ・だより92号
- ・エコサロン
- ・千葉県環境学習指導者養成講座応募
- ・環境教育ワークショップ
- ・花見川ナガエツルノゲイトウ調査
- ・エコメッセ
- ・環境学習

## 7月運営委員会

日時 7月10日(水) 9:30~11:30  
場所 船橋市民活動センター

### 【報告】

- ・エコフェアいちほら出展
- ・千葉県青少年協会研修会
- ・千葉県環境学習指導者養成講座プレゼン
- ・花見川ナガエツルノゲイトウ調査・意見交換会
- ・県民環境講座
- ・環境教育ワークショップ
- ・印旛沼ナガエツルノゲイトウ駆除

### 【協議】

- ・だより92号
- ・エコサロン
- ・花見川ナガエツルノゲイトウその後の展開
- ・環境学習
- ・エコメッセ

## お知らせ

「私の3Rアイデア大募集」～ちばエコスタイル～

募集資格：千葉県在住または在勤・在学  
募集区分：①リデュースの部 ②リユースの部  
③リサイクルの部

応募方法：指定の応募用紙を用いて、郵送またはEメール  
※応募用紙は、ホームページからも入手できます。

締め切り：平成25年9月10日(火)消印有効  
表彰：優秀なものを入賞とし、表彰します

問い合わせ・応募先

〒260-8667

千葉市中央区市場町1-1

千葉県環境生活部資源循環推進課

TEL：043-223-2760 FAX：043-221-3970

Eメール：e-haiki@mz.pref.chiba.lg.jp

URL http://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/

第18回 エコメッセ2013in ちば開催案内

日時：9月28日(土) 10時~16時

会場：幕張メッセ国際会議室会議場

持続可能な社会の実現をめざして、市民・企業・行政のみ  
なが良好なパートナーシップのもとに協働し開催する、  
千葉県最大の環境活動見本市です。出展は120団体、200  
ブース。

環境保全活動の紹介、スクール環境メッセ、マッチングメッ  
セ、エコクイズラリー、エコカーの展示・試乗会、缶つぶし  
大会、元気もりもり千葉の物産展など、楽しみながら環境に  
ついて学べるお祭りです。

再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推  
進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるや  
かな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、  
行政及び専門家とのパートナーシップによる活動  
の展開を図ることを目的としたネットワークで  
す。

入会申込先：(一財)千葉県環境財団

業務部環境活動支援課 気付

TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969

Eメール: info@kanpachiba.com

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

## <環境パートナーシップちば>

### 入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)

会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		